

**製品名: C/EBP  $\beta$  ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07706**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、その他
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	36kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CEBPB
別名	CEBPB; LAP; TCF5; PP9092; CCAAT/enhancer-binding protein beta; C/EBP beta; Liver activator protein; Nuclear factor NF-IL6; Transcription factor 5; TCF-5
遺伝子 ID	1051.0
SwissProt ID	P17676
免疫原	抗血清はヒト C/EBP- $\beta$ 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 201-250

**背景**

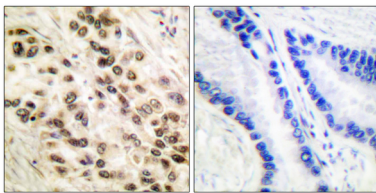
このイントロンのない遺伝子は、塩基性ロイシンジッパー（bZIP）ドメインを含む転写因子をコードしています。コードされている

タンパク質はホモ二量体として機能しますが、CCAAT/エンハンサー結合タンパク質  $\alpha$ 、 $\delta$ 、 $\gamma$  とヘテロ二量体を形成することもできます。このタンパク質の活性は、免疫反応や炎症反応などに関わる遺伝子の調節において重要です。選択的なインフレーム AUG 開始コドンの使用により、それぞれが異なる生物学的機能を持つ複数のタンパク質アイソフォームが生成されます。[RefSeq 提供、2013 年 10 月]機能: 免疫反応や炎症反応に関わる遺伝子の調節における重要な転写活性化因子。IL-6 遺伝子の IL-1 応答エレメントに特異的に結合します。NF-IL6 は、いくつかの急性期遺伝子やサイトカイン遺伝子の調節領域にも結合します。急性期反応、炎症、造血の調節において役割を果たしていると考えられます。コンセンサス認識部位は 5'-T[**TG**]NNGNAA[**TG**]-3'です。PTM: SUMO2 または SUMO3 のポリマー鎖によって SUMO 化されます。類似性: bZIP ファミリーに属します。類似性: bZIP ファミリーに属します。C/EBP サブファミリーに属します。類似性: 1 つの bZIP ドメインを含みます。サブユニット: DNA に二量体として結合し、C/EBP $\alpha$ 、 $\delta$ 、 $\gamma$  と安定なヘテロ二量体を形成します。TRIM28 および PTGES2 と相互作用します。組織特異性: 肺、腎臓、脾臓で低レベルで発現します。、

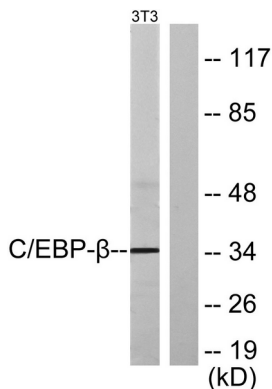
## 研究分野

幹細胞経路; タンパク質アセチル化

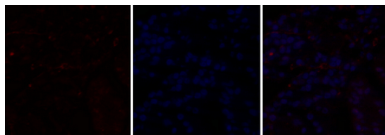
## 画像データ



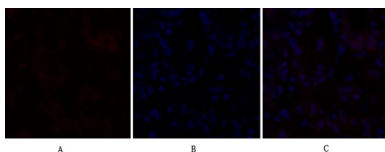
C/EBP-beta 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



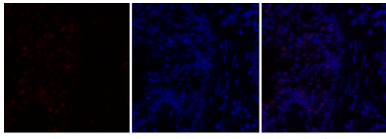
C/EBP-beta 抗体を用いた NIH/3T3 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



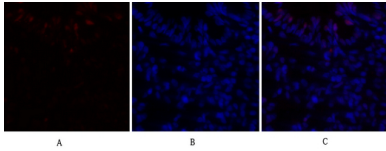
ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, C/EBP  $\beta$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B のマージ。



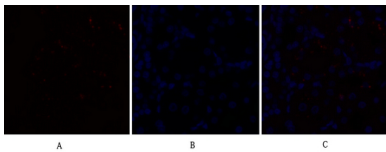
ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, C/EBP  $\beta$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B のマージ。



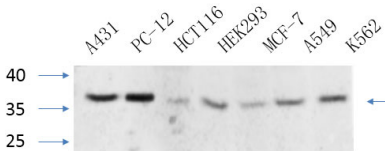
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, C/EBP  $\beta$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



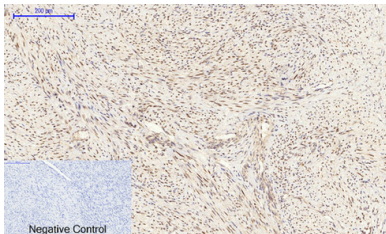
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, C/EBP  $\beta$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, C/EBP  $\beta$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



C/EBP  $\beta$  ウサギポリクローナル抗体 (1:1000 希釈、4°C、一晩) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体: ヤギ抗ウサギ IgG IRDye 800 (1:5000 希釈、25°C、1 時間)。



パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. C/EBP  $\beta$  ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。